

## 第 174 回 山行記 那須岳(茶臼岳、朝日岳、三本槍岳)2023/7/24,25



2023 年度の宿泊山行は那須岳となりました。習志野山楽会では茶臼岳には過去 3 回日帰り山行の実績がありますが朝日岳、三本槍岳の那須連山三山全てを回る宿泊山行は今回が初めてとなります。11 名が参加しバスは各乗車時点で参加者を乗せ予定通り 6 時に谷津船橋インターに入りました。数日前まで現地の天気は危ぶまれましたがタイミング良く 7 月 22 日関東地方の梅雨が明け 24,25 日とも良い天気になり登山指数も前日の B から A に変わりました。バスが途中休憩の東北自動車道羽生 SA を出てしばらくすると遠くに那須岳が見えて近づくにつれ絶好の登山への期待でバスの中は興奮が高まってきました。9:20 那須ロープウェイ山麓駐車場に到着し 9:40 発のロープウェイで山頂駅へ上がると梅雨明け直後と夏休みに入ったことで多くの登山者と先生に連れられた小学生達が来ていました。10:00 準備運動を済まし 1 日目は白煙をあげる那須岳の主



峰茶白岳と宿泊地の三斗温泉を目指し出発。茶白岳の登り始めは緩い傾斜だったのが山頂が近くなると急斜面に変わり大きさが異なる岩がごろごろと折り重なるガレ場を歩いて 10:50 山頂 1,915m に到着。山頂は背の高い樹林がなく少し霞がかかっていましたが眼下の那須高原を一望しながら昼食



を摂り 11:20 次の休憩地の牛ヶ首へ、まずは登ってきた道を下り急斜面の終わり辺りの分岐を右へ茶白岳を捲くように歩き 12:25 牛ヶ首に到着、振り返ると押しつぶされそうな大迫力の茶白岳がまっけて山頂から大きな岩が今にもこちらへ転がり落ちてきそうでした。ここから樹林帯の中を下って行き秋には色とりどりの植物が交じり合い‘陸のサンゴ礁’と



称される姥ヶ平とその林の中にある山池‘ひょうたん池’に寄り 尻いだ池に映る逆さ茶白岳を運よく見ることができ秘蔵池そのものでした。姥ヶ平をさらに下り茶白岳から標高約 600m 下にある本日ゴールの奥那須の秘湯三斗小屋温泉煙草屋旅館に 15:00 到着し、まずは温泉に浸かり夕食前の酒盛りで登山の疲れをとりました。翌日は早朝に露天風呂に

入り目の前の三倉山、大倉山にかかる雲と朝日が山肌をゆっくり描いていく自然の変化に癒されてから朝食をしっかり摂り 2 日目登山の英気を養いました。7:15 白煙をあげる三斗温泉源泉横からスタートし標高差 400m の急登を一気に上ったらまた茶白岳が姿を現し、周辺の山々にさす陽ざしと風で笹の緑が濃く薄く変化してまるで波をうっているようでした。9:10 朝日岳分岐点に着き朝日岳の突先を往復し目的山最後の三本槍岳へ。清水平の木道を過ぎてから北温泉分岐を右に曲がればゴール方向を左に曲がり 11:15 三本槍岳に到着し、煙草屋旅館で





頂いたおにぎりで昼食を摂り北温泉分岐に戻って小休憩の後ラストスパートで中ノ大倉尾根を下り14:00 ゴールのゴンドラ山頂駅に到着し登山を終了。けがや体調を崩すこともなく無事下山できたのはまるで前日のスタートから翌日のゴールまで雄大な姿をした茶臼岳がどこからでもずっと私達を見守ってくれていたような気がしました。ゴンドラ麓駅から道の駅‘那須高原友愛の森’に移動しお待ちかねのビ

ールを1本、しかし1ブランドしかなかったので那須IC手前のコンビニに寄り各自好みのブランドをもう1本買って習志野へ再出発し途中蓮田SAで小休憩してほぼ予定通りに19:00 谷津船橋インターに到着しました。那須の自然と茶臼岳の荒々しい火山を囲むように歩いた長い急登の上り下り、秘蔵のひょうたん池、三斗温泉の癒し、山道に咲く可愛い高山植物等宿泊山行ならではの魅力を楽しめました。

(S.S 記)



マルバシモツケ



ハグサンオミナエシ (別名コキンレイカ)



ミヤマホツツジ



タカネイブキボウフウ



ヒメシャジン



オトギリソウ